



人間らしく生きる権利を求める人々の追い風に ～2023年度ノーベル賞に選出された女性たち～

2023年度のノーベル賞に4人の女性が選出されています。生理学医学賞には新型コロナウイルスのワクチン開発に貢献した生化学者のカリコー・カタリンさん(68)、物理学賞にはアト秒物理学研究のアンヌ・リュイリエさん(65)、平和賞には人権活動家のナルゲス・モハンマディさん(51)、経済学賞には、経済史学家で初の単独受賞となるクラウディア・ゴールディンさん(77)が選ばれました。

今回は、平和賞と経済学賞受賞のお二人を取り上げ、その意味を考えます。

■人間がより自分らしく生きる権利の主張

ナルゲス・モハンマディさんは、テヘランのエビン刑務所に国家安全保障の侵害を理由に収監されている「良心の囚人」の一人で、刑期は累計31年に及びます。イランでは昨年9月、22歳の女性がヒジャブの着用が不適切であると逮捕され3日後に急死、警察官の暴力を疑う抗議デモが拡大しました。モハンマディさんも獄中からイラン政府を非難するSNS投稿を続け、昨12月には、収監中の刑務所での性的暴行や暴力の実態をBBCに告発しています。「民主主義や自由、平等の実現のための努力をやめない」「女性の解放が成し遂げられるまで、抑圧と闘い続ける」と語りました。

選考委員会は受賞理由を、「イランにおける女性の抑圧と闘い、すべての人の人権と自由を促進した」と発表、「基本的な人権の尊重が備わって持続的社會が実現される」と強調し、釈放を呼びかけました。

イランの2023年ジェンダーギャップ指数は143位。1983年にヒジャブ着用義務の法律が制定され、この9月には違反罰則の強化法案が可決されています。今回の賞の意義は、「女性が受賞というより、自由と公正を願う市民運動の中心人物が選ばれたことにある」とイスラム圏ジェンダーの研究者は評価しています。

■男女の賃金格差の要因や労働市場における女性の役割などを研究、柔軟な働き方拡大の契機に

経済学賞のクラウディア・ゴールディンさんは、男女の収入格差が生じる原因に対する包括的研究が評価されました。それは同時に、「資本主義がいかに関女性たちの無報酬労働に依存しているか」の裏付けを世界に提出したともいわれています。

米国の200年以上に亘るデータを収集、所得や雇用率の男女差の変化やその背景を検証、20世紀の多くの期間に亘り、男女の収入格差が縮まらなかった状態に

関する包括的な説明を初めて提供し、その原因を掘り下げました。著書「なぜ男女の賃金に格差があるのか女性の生き方の経済学」にその研究が著されていますが、「100年の歴史を俯瞰し、問題解決への大きな示唆に富む」と評価されました。

選考委員長は、「労働市場における女性の役割を理解することは社会にとって重要。ゴールディン氏の革新的な研究のおかげで、私たちは、隠された要因や、将来、どの障壁に対処すべきかをさらに知ることができた」と評価しています。

記者会見では日本の労働市場にも触れ、男性を100とした場合の日本の男女の賃金格差は77.5(2020年)とOECD平均88.4を大きく下回る、格差解消への取り組みが不十分だと言及しています。また、男性の育児休業制度の取得率は13.97%と低く、制度利用が進まない。ユニセフランキング1位(2021)の制度内容ではあっても実際は10%台であるとの現状を指摘しました。

日本の男女間賃金格差は大きく、OECD加盟38か国の平均は11.9%ですが、日本は21.3%とG7中最下位です。日本よりも差が大きいのは、ラトビア24.0%、イスラエル25.4%、最下位は韓国の31.2%となっています。

■これまでのノーベル賞は、功績の評価が男性目線であった経緯もあり、女性の受賞者は、団体を除くと5%(約20人に1人)という少なさ

近年、不平等な状況や紛争下で人権の阻害要因に立ち向かう人々に注目し、社会の動きにタイムリーな授与であろうとし、また国々の政策の裏付けとするために、格差を生む根本的要因に迫る研究や実践に授与し、その動きを後押ししようとの選考姿勢があります。しかしグローバルサウス側からは、外圧をかけるための道具だとの反発もみられます。

NGOなど市民社会と国連の連携が進んでいます。国連は今年、包括的差別禁止法の実践ガイドを発行しました。第二波フェミニズムのスローガン「個人的なことは政治的なこと(The personal is political.)」、一人一人の個人的な問題であるからと我慢を強いられた事象こそ社会的政治的な問題であったとの気付きは、#MeToo運動を契機に動きが加速しています。誰もが自分らしく気持ちよく生きていける社会をめざし、手を携えながら自分なりの尽力を続けてゆきたいですね。(城倉純子)

「タリバン支配下のアフガニスタン少女・女性を取り巻く課題」

10月11日は、少女のエンパワーメントを目的に国連が制定した「国際ガールズデー」です。アフガニスタンの少女や女性に明るい未来をとの希望を込めて、9日に、標記のイベントが開催されました。

講師は、イスラムとジェンダーを専門とする同志社大学大学院グローバルスタディーズ研究科教授の中西久枝さん。アフガニスタンの現在、なぜタリバン政権が復活したのか、少女と女性をとりまく問題、などについてお話下さいました。中西さんは、アフガニスタンの行政の人材育成事業に携われ、2002年にはイランの調査に、2003年11月にはアフガニスタンの調査に行かれています。

アフガニスタンでは、1990年初頭頃から台頭してきたタリバンが、2021年8月から統治を始めるに至りました。少女や女性への行動制限が強化され、少女は中学以上に進めなくなり、女子学生は大学へ通えず、女性は外で働くことを禁じられています。

2021年に米軍が撤退。8月から復活したタリバン政権の政府運営能力は弱く、前政府の官僚が為政を担っているとのことでした。少女や女性の人権問題は、「男女隔離を徹底するのがイスラムである」との主張から起こっており、少女たちは小学校まで、大学の女性への教育は2022年12月に停止、女性は男性の付き添いが必要であれば外出できず、さらに少女婚の強化が進んでいる現状であるとのことでした。

イスラム法に基づく統治であるとタリバンは主張していますが、1964年制定のアフガニスタンの憲法では、女性の教育の権利は保証されていました。慣習や家父長制の価値と規範が社会の秩序の維持であるとする男性優位の考え方が背景にあります。タリバン政権は国際承認を得ておらず、イスラム法の解釈ができる政権でないし、イスラム法学者などの専門家の存在がない、原理主義者であるとの決めつけさえ理解していないと思われる現状にあるとのことでした。米軍が撤退時に置いてきた武器をアフリカの紛争地に売却などして一定の収入はある、今後もタリバン政権は続くとのことでした。

アフガニスタンからの留学生Kさんは、まだまだ識字率は低いが、2001年にはゼロであった小学生は、20年を過ぎて250万人になった。しかし2018年になると就学への妨害が始まり2022年3月以降、120万人の少女が教育へのアクセスを失ったと報告しました。

質疑応答では、女性は女性の医師にしか診てもらえないとのこと、職業を剥脱されているのにタリバンはどのように考えているのか、との質問に、行政内の女性職員はタリバン統治開始後一週間以内に一斉解雇された。国連で訴えているが、タリバン側は聞く耳を持たない。いかに自分たちが権利を行使できているかの国際社会への証明、つまり女性の教育弾圧が政治的プロパガンダになっている。保健・衛生・農業など政治性のない分野への国際社会の支援を続けていくべきである、と応えられました。

中西さんは、同志社大学で学んだアフガニスタン行政官の危機について、現在の行政機構の中で働いている者もいるが8割は海外に逃れている、同志社大学ではそれらの学生たちを大学として日本に呼び戻してはいないが、と心配と不安に満ちた表情をされましたが、このような現状の中にあっても、家庭やコミュニティで教育活動に果敢に尽力する女性たちは多い、識字率は確実に上がった、強い女性たちが次世代を生んでいくことに希望を託したい、と力強くイベントを締めくくられました。

(城倉純子)



第78回国連総会日本政府代表顧問 紙谷雅子氏の歓送会に出席して

9月19日から第78回国連総会がニューヨークの国連本部で開催されています。国連総会には議案別に6つの委員会があり、社会経済や人権問題を扱う第3委員会には、1957年に藤田たき氏が代表団の一員に加えられて以来、毎年、NGOから女性代表1名が派遣されています。今年の第78回国連総会日本政府代表顧問には学習院大学名誉教授 紙谷雅子氏が決定し、その歓送会が9月26日(火)午後、婦選会館でハイブリッドにより開催されました(参加者45名)。

第一部では外務省総合外交政策局女性参画推進室長 古本建彦氏の代読により外務大臣からの辞令が交付され、引き続き「第78回国連総会第3委員会の概要及び女性分野の進展について」の講演、質疑応

答が行われました。休憩・懇談ののち第二部に移り、紙谷雅子氏の所属する女性法律家協会会長佐貫葉子氏による「歓送のことは」、最後に紙谷雅子氏の挨拶、決意表明がありました。

すでに第3委員会で「女性の地位について」「児童の権利」などのステートメント発表が行われたとの報告を受けています。ご活躍を期待するとともに、帰国後に開催予定の「報告会」に参加して、国連で感じられた今日の諸問題などについてもお話を伺えることを楽しみにしています。

(牧島悠美子)



国連ウイメン日本協会東京主催の連続講座「大学教育最前線」は2022年度に引き続き、2023年度も清泉女子大学安齋徹教授を講師にお招きし、第3回は5月12日に、第4回は6月30日に婦選会館にて行われました。

第3回の講座「コンセプト」では、昨年度に学んだコンセプト(思考と実践の型)の使い方について重点がおかれ、平等と公平について考察するという形式で行われました。安齋教授によれば「良識ある市民が持つ責任の一つが、公平性(equity)に敏感になり様々なコンセプトを意識して不公平を是正すること」です。公平性は平等性(equality)とは異なり、機会の平等ではなく結果の平等に重きをおきます。例えば約10%の左利きの人たちを含めすべての人に同じ機会を与える平等に対して、左利きの人たちに便宜を図るのが公平です。

グループワーク1では左利きの人たちの改札口を作るか否か、作る場合はどのような改札口が適当かを考え、議論しました。他にグループワークとして、障害者のオリンピック出場の是非、都立高校の男女別定員制、議会他におけるクォータ制について考え、議論しました。コンセプトは知識ではなく、このように日常的問題を考えるのに役立つことは分かりましたが、考える際に101のコンセプトのどの型が役立つのかに関する議論が必要ではなかったかと思いました。

第4回の「リーダーシップ」では、一これからの社会が求めるリーダー像、人材養成術を考えようというサブタイトルで行われました。まず変革を推し進める機能が重要なリーダーシップと効率的な組織運営機能が重要なマネジメントの違い、両者の補完関係が説明されました。その後ワーク1で各自が両者の違いを考えました。次に、様々な理論に基づいてリーダーシップ論が展開されましたが、多種多様なリーダーシップ論では、カリスマ的リーダーシップ、変革型リーダーシップ、サーバントリーダーシップ、静かなリーダーシップ、羊飼い型リーダーシップなどが説明されました。状況適合理論では業務の状況と部下に合わせリーダーのタイプを使い分ける重要性も指摘されました。例えば、平常時には人間

関係を重視するタイプ、非常時にはタスク志向型タイプが望ましいと考えられています。部下の成熟度に合わせ、教示型から委任型までのリーダーシップを使い分けることも大切であることも述べられました。

続くワーク2では、各自が自分のリーダー経験やその後の人生への影響について考えました。ワーク3では、20個の言葉の中からリーダーシップ像として理想とするものを7項目選び、その理由を書きました。ちなみに上位3位は「正直」、「未来志向」、「わくわくさせる」でした。

フェミニンリーダーシップは、柔和で、賢明で、静かな強さという特色があるとの研究結果が紹介され、つながりを大切にし、意思決定の際に事実のみではなく感情も考慮し、皆が勝者になる解決を図る女性リーダー特有の解決に期待が寄せられている先行研究も紹介されました。しかしながら、日本女性のジェンダーギャップ指数は下位に低迷しており、ビジネス界での女性の活躍推進を阻む女性の初期離職には、仕事配分の男女差をなくし、専門志向を重視するなど、「ガラスの(天井ならぬ)床」を破る対策が必要であるとの指摘がなされました。清泉女子大学安齋ゼミでは、リーダー輪番制を取っており、各自が自分の役割を考え、行動することにより、女性のリーダー育成に努めているとのことでした。リーダーシップについて深く考えさせられるよい講座でした。(長谷川瑞穂)



事業部から 皆様のご協力のもとに ～バザー報告～

◆外出日和に恵まれた5月28日(日)、四ツ谷の上智大学で「オールソフィアの集い」が開催され、今年もまた構内のメインストリートに「UN Women東京」でバザーを出店しました。時折り懐かしい顔ぶれに出くわし、テントに呼び入れて支援を依頼、皆さん快く受け入れてくださいました。1960年代、戦後独立を勝ち得、勃興の機運に満ちていた東南アジアの国々に支援をと活動した学生時代を思い出しながら、現在できる支援に力をかけて欲しいと訴え、また今世紀の新たな支援策とその持続を考えたいとも思いました。

◆11月25日開催予定のチャリティーコンサートのバザーにふさわしい、大変美しい色彩のポーチ40個を寄付して下さったTさん。95歳の資産家の女性で、「UN Women東京」の趣旨に賛同し、何か社会に貢献したいと思っていたので良い機会を与えてもらったと大変喜ばれ、一つ一つご自身で作りに上げて下さったとの

こと。善意のまごころに深く感謝を申し上げます。◆年末には音楽教育に力を入れる埼玉県上尾市の文化センター(清友会主催 第26回クリスマスチャリティーコンサート)に毎年出店を許可して下さる友清代表のご支援に感謝しつつ、楽しい1日でありますことを心から願っています!(開催日は上尾市市民文化センター大ホール、12月23日13時～)(太田恵子 背戸民恵)

オールソフィアデーの様子



第33回国連ウィメン日本協会東京チャリティコンサート

朗読と音楽で聴く絵本

「ちいさな曲芸師 バーナビー」

バーバラ・クーニー再話・絵 末盛千枝子訳 (株)現代企画室

風流楽 (ふる〜ら) / 野田 香苗 (朗読) 渡邊 温子(チェンバロ演奏)

2023年 11月25日(土)

14時開演(13時30分開場)

今井館 聖書講堂

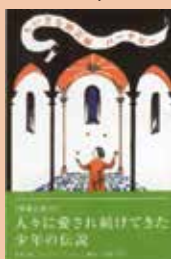
文京区本駒込6-11-15 (六義園隣)

JR駒込駅南口 徒歩12分

都営三田線千石駅A4 徒歩5分

南北線駒込駅2番 徒歩8分

一般3,000円(子ども1,000円)



「ちいさな曲芸師 バーナビー」

バーバラ・クーニー再話・絵 末盛千枝子訳 (株)現代企画室

修道院で世話になっている孤児の曲芸師バーナビー。自分にできる唯一のこと、曲芸を必死にすることで、マリアさまへの祈りとする。心に煩悶と修道士たちの反感を感じながら...

13世紀からフランスに伝わるお話を、アメリカを代表する絵本作家バーバラ・クーニーが独特の絵で新たな絵本作品に仕上げています。コンサート当日はこの絵本の販売も行います。

〈風流楽 (ふる〜ら)〉2007年結成。朗読と音楽のコラボレーションを行う女性ユニット。朗読を野田香苗(右)、楽曲構成とチェンバロ演奏を渡邊温子(左)が担当。初演「竹取物語」で西洋の古楽器チェンバロと日本古典の世界の融合を試み、詩や物語の朗読とチェンバロの穏やかな弦の響きのコラボレーションを追求して今日に至っている。公演回数は出張演奏、定例公演(冬・春)を含め40回以上にのぼる。今回は朗読と音楽で聴く絵本のほか、短編の朗読やチェンバロ演奏をお楽しみいただけます。



当日はバザーのほかに、オーガニックチョコレートも販売します。どうぞお楽しみに。皆様のお越しを心よりお待ちしております。

たくさんのご寄付・ご協力をいただき有難うございました。

(敬称略)

寄付者 (2023年4月11日~2023年10月20日)

牧島悠美子 太田恵子 立木冬麗 長濱節子 福田文字 金子裕子 白根和味
鈴木千鶴子 梅田和子 中務安紀子 安齋徹 加藤聖子 小野田かずみ 飯田寛子
城倉純子 山崎恵美子 阿部幸子 背戸民恵



山口みつ子 元国際婦人年連絡会事務局長を偲んで

国連ウィメン日本協会東京も加盟している国際婦人年連絡会で事務局長を長く務められた山口みつ子様が、2023年4月27日に永眠されました。山口様は60年余にわたって(公財)市川房枝記念会の運営に携わってこられ、9月30日には同財団の主催による「山口みつ子さんを偲ぶ会」が婦選会館において催され、関係者の皆様が故人を偲びました。

当団体の前身である「ユニフェム東京」は、ユニフェム国内委員会の正会員である国際婦人年連絡会の一組織であったため、世話人でもあった山口様には大変お世話様になりました。

その後国連改革によりUN Womenとなり、当会が国内委員会の正会員として独立することになった時にも、私どもが活動しやすいように組織改革を強く後押ししてくださり、お陰で当会の今日があると深く感謝しています。婦選会館で開催したバザーでは、いつも物心ともに支援してくださっていた山口みつ子様のお姿に思いをはせつつ、ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

(阿部幸子)



編集後記

「自分の中に限界を作らないことの大切さを改めて教えてくれた」との女性記者のコメントが、大谷翔平選手のMLBホームラン王獲得の新聞記事に添えられていました。女性記者の覚醒に強く共感心が奮え、力が湧いてきました。(J)

今号はいつもよりひと月早い発刊になりました。年末にバタバタと編集するよりも少しでもじっくりとニューズレター制作に取り組むために。国際紛争の少しでも早い停戦と終結を切に願いつつ、第一面はノーベル賞の話題に未来への希望を託しました。広い視野、公平性、そしてチャレンジングな精神も持ち合わせていたいと思いつつ、役員一丸となって前に進んでいます。(N)

国連ウィメン日本協会東京

News Letter

Vol.33

発行人: 会長 城倉純子

発行日: 2023年 11月14日

〒167-0042 東京都杉並区西荻北3-11-3

サンコート西荻窪 105

Tel/Fax 03-6913-9946

<http://unwomentokyo.org>

E-mail:unwomentokyo@unwomentokyo.org